



野菜種子業界のための植物の対病害虫反応に関する用語の定義

(2017年5月ブダペストにおいてISF野菜草花部会により採択)

1. 序論

植物と病害虫の関係は非常に複雑である。ある病害虫に対する植物品種の反応を記述する用語は、既知でかつ特定のバイオタイプ、パソタイプ、レースまたはストレインの対象病害虫を用いた試験により決定される。

しかしながら実際には、病害虫が植物に病気を起こすこと、または害を及ぼしたりする能力は、環境条件、病害虫自体の特性及び植物自体の防御力に依存する。同じ植物種でも品種により、それら品種自体が持つ防御力は異なり得る。植物の成長段階、病害虫の圧力、病毒性または不良環境条件の程度といった異なる条件の下では、同じ植物品種でも病害虫の間の相互作用が異なる結果を生じ得る。

病害虫は、元の病害虫の型では被害を受けない植物に対し、罹病させることまたは被害を与えることがありうる。

植物の病害虫に対する反応を記述する際に使用される用語の一貫性を推進するため、ISF野菜草花部会は以下の用語を定義した。

2. 定義

感受性とは、植物品種が特定の病害虫の生育及びまたは増殖を抑制することができないことである。

抵抗性とは、同様の環境条件及びまたは病害虫圧力の下で、感受性の植物品種に比較して特定の病害虫の生育及びまたは増殖、及びまたは被害を抑制することができる能力のことである。

抵抗性品種は、強い病害虫圧力の下で若干の病徴や被害を生じることがある。二つの抵抗性レベルが定義される。

高抵抗性 (HR) : 通常病害虫圧力の下で感受性品種と比較して特定の病害虫の生育及びまたは増殖、及びまたはそれによる被害を高度に抑制する植物品種。しかしながら、これらの植物品種も強い病害虫圧力の下では若干の病徴・被害を生じ得る。

中抵抗性 (IR) : 特定の病害虫の生育及びまたは増殖、及びまたはそれによる被害を抑制するが、高抵抗性品種に比べてより大きな程度

(和訳案)

の病徴または被害を示すことがありうる植物品種。それでもなお、中抵抗性植物品種は、同様の環境条件及びまたは病害虫圧力の下で、感受性品種に比べて軽微な病徴または被害を示す。

特定の病害虫に対して同じ抵抗性レベルのとされる品種も、品種を構成する異なる遺伝子により異なる抵抗性反応を示し得る。

ある品種の抵抗性が主張されたとしても、当該病害虫の特定のバイオタイプ、パソタイプ、レース及びストレインに限定されたものであることに留意すべきである。

品種の抵抗性の記述において病害虫のバイオタイプ、パソタイプ、レース及びストレインが特定されていない場合、対象病害虫について一般的に認められたバイオタイプ、パソタイプ、レース及びストレインの区別がないことが理由である。この場合、抵抗性はその病原体のある分離株（それ以上特定されていない）のみに対してのものとなる。

新たに発生するバイオタイプ、パソタイプ、レース及びストレインは、当初の抵抗性表記の対象とはならない。

免疫性とは、ある特定の病害虫の攻撃や感染を受けないときをいう。

3. 声明

国際種子連盟野菜草花部会は、野菜種苗会社が顧客とのやりとりの中で、感受性、高抵抗性又は中抵抗性、免疫性の用語を使用することを推奨する。全ての言語において標準的な省略形としてHR（高抵抗性）及びIR（中抵抗性）が使用されなければならない。

野菜種苗会社は、この目的のためには「耐病性 (tolerance)」という用語を避けるべきであるが、植物品種が環境的ストレスに耐え、成長や外観及び収量に深刻な結果を招かない特性を記述するために、「耐性 (tolerance)」という用語を使い続けても良い。

これらの定義と推奨は5年以内に見直される。